

# 日本で活躍している☆外国人⑬

歌手・バンドウーラ奏者

ウクライナ出身のナターシャ・グジーさん

母国を離れ、日本で活躍する外国人を紹介

ウクライナ(旧ソ連)出身の歌手・バンドウーラ奏者で、川崎市内でも演奏されているナターシャ・グジーさんにお話を伺いました。6歳の時に、父親の勤務していたチェルノブイリ原発の事故に遭い、その被ばく経験をもとに、東日本大震災以降、被災者や子どもたちのための支援を続けています。



故郷ウクライナの冬景色

## 来日のきっかけは？

1996年と98年に民族音楽団のメンバーとして2度来日しました。歌手は子どもの頃からの夢でしたが、父が倒れたため一度はあきらめました。そんな折、今は「日本のお父さん」でもあるフォトジャーナリストの広河隆一氏が日本で活動する道を拓いてくださいました。

## バンドウーラはどのような楽器ですか？

### 始めたきっかけは？

バンドウーラは、琵琶に似た形をしていて、私の楽器は弦が63本、重さは8kgもあります。奏者に近いほうが弦も長く低音となっている楽器です。

音楽好きの家族と一緒に、小さな頃から歌っていました。踊りやフェンシングなどさまざまな習い事をしましたが、叔母や姉がバンドウーラを弾く姿に憧れて習い始めました。

撮影：広河隆一

## 日本での生活は？

平原が一面に広がっているウクライナの景色とは異なり、日本は高い建物が多く人が多い印象を受けました。食生活の違いに来日当初は戸惑いましたが、今では和食も好きです。

最初は日本語ができず、チェルノブイリ事故の体験談は通訳を介していましたが、「自分の言葉で伝えたい」という思いから一生懸命日本語を学びました。



## 昨年3/11の震災以後、様々な活動をされているようですが？

実際に津波の被災地を訪れ、臭いや景色などメディアでは伝わらないものを目の当たりにし、衝撃を感じました。自分の歌で、被災者に生きる希望を感じてほしいと歌声を届けに行っています。また、沖縄にある福島の子どもの保養施設などの支援も行っています。



久しぶりに家族で囲んだウクライナ料理

## 今後の活動は？

これからも長く地道に音楽活動を続け、その活動を通して私の想いを伝えていきたいです。

とても美しいウクライナ女性といった印象のナターシャ・グジーさんは、日本語を丁寧に話され、「日本語の美しさが好き、漢字の奥深さが魅力的。」とおっしゃっていました。お米の味の違いなど、日本の食文化に対する興味や理解も深い様子でした。今後のご活躍を期待しています。

(取材・文：編集ボランティア 伊東 都)

ウクライナの写真：ナターシャ・グジー公式ホームページより転載  
<http://www.office-zirka.com/>